

沖縄県平和祈念資料館だより



「平和への思い（ウムイ）」発信・交流・継承事業

令和7年度「平和への思い」発信・交流・継承事業は令和元年にスタートし、今回で7回目となります。本事業では、沖縄と同様に、悲惨な戦争体験などを有し、体験の継承と平和構築に取り組むアジア諸国・地域（韓国、台湾、ベトナム、カンボジア）と日本（沖縄、広島、長崎）の参加者が、本県に集い共に学びながら相互理解を深め、平和について考える機会として、11月24日から29日に「沖縄共同宿泊研修」が行われました。沖縄戦や集団安全保障についての講座受講により学びを深め、南風原陸軍病院壕でのフィールドワークでは、当時の様子を追体験しました。また、県内の高校で「出前授業」を行い、高校生との交流を深め、平和について多角的に学びました。本事業で培った絆により平和構築に向けたネットワークの形成を促進し、平和創造に資する教育、活動を行える人材育成を目的としています。

最終日の成果報告会は、一般公開で開催され、参加者が沖縄で得た学びや考えたことを発信し、これからの平和継承などについて活発なディスカッションが行われました。

【参加者】 沖縄 広島 長崎 韓国（済州） 台湾 ベトナム カンボジアの大学生及び大学院生各5名、および指導者

【沖縄共同学習の日程】

- 11月24日 開会式 チームビルディング
- 11月25日 各国・地域の発表、沖縄戦の講義、平和祈念資料館・平和の礎視察
- 11月26日 嘉数高台公園、首里城公園、第32軍司令部壕跡視察
OB・OG交流会、安全保障の講義
- 11月27日 南風原陸軍病院・南風原文化センター視察
- 11月28日 ディスカッション、豊見城南高校との交流
- 11月29日 成果報告会・ディスカッション（テーマ 『痛み』の象徴）

【事前学習の内容】

- 沖縄県…… 沖縄戦
- 広島県…… 原爆投下
- 長崎県…… 原爆投下
- 韓国…… 済州4・3事件
- 台湾…… 台湾二・二八事件
- ベトナム…… ベトナム戦争
- カンボジア…… ポルポト政権大虐殺

沖縄戦の語り継ぎ手養成事業

戦後 80 年が過ぎ、沖縄戦が体験者の高齢化に伴い、直接体験をお聞きする機会が年々減少しています。また、現在活動している平和ガイドの担い手も高齢となり、後継者の育成が喫緊の課題となっています。このような中で、沖縄県平和祈念資料館では、沖縄戦の体験や記憶を継承し、沖縄戦の実相を語り継ぐための平和ガイドや、平和講話、平和学習を担うことができる人材を育成するために「沖縄戦の語り継ぎ手養成講座」を実施しました。また、令和 6 年度受講生の「フォローアップ研修」を 12 月に実施しました。

【募集人数】 40 名（沖縄本島会場 30 名、石垣島会場 10 名）

【講座日程】 令和7年 8月23日（土）～ 11月15日（土） 40.5 時間

【講座の特徴】 ☆「継承する力」を育成することを重視したプログラム☆

- ①知識・理解促進・・・ 沖縄戦や戦後復興などの知識を専門家から学ぶ。
- ②体験・実習・・・ フィールドワークを行い体感的に学ぶ。
- ③構築・発信力形成・・・ ガイドとしての技術、構成力、発信力などを学ぶ。

沖 縄 会 場					石 垣 会 場				
月	日	曜	回	内 容	月	日	曜	回	内 容
8	23	土	1	事前オリエンテーション、開校式	8	23	土	1	事前オリエンテーション、開校式
			2	沖縄の近代史・琉球王国時代～戦前の沖縄【知識・理解①】				2	沖縄の近代史・琉球王国時代～戦前の沖縄【知識・理解①】
8	30	土	3	沖縄本島及び離島地域における沖縄戦【知識・理解②】	8	30	土	3	沖縄本島及び離島地域における沖縄戦【知識・理解②】
			4	八重山戦争マラリア【知識・理解③】				4	八重山戦争マラリア【知識・理解③】
9	13	土	5	沖縄の戦後復興、戦後～現在【知識・理解④】	9	13	土	5	沖縄の戦後復興、戦後～現在【知識・理解④】
			6	沖縄戦体験者の語り継ぎ手に関する講座及び実習 A【構築・発信①】				6	沖縄戦体験者の語り継ぎ手に関する講座及び実習 A【構築・発信①】
9	20	土	7	沖縄島中部の戦争関連遺跡及び施設【フィールドワーク①】バスツアー	9	20	土	7	石垣島内の戦争関連遺跡及び施設【フィールドワーク①】バスツアー
10	4	土	8	沖縄島南部の戦争関連遺跡及び施設【フィールドワーク②】バスツアー	10	4	土	8	西表島内の戦争関連遺跡及び施設【フィールドワーク②】バスツアー
10	11	土	9	レポート作成について、振り返り【構築・発信②】	10	11	土	9	レポート作成について、振り返り【構築・発信②】
			10	平和学習ファシリテートに関する講座及び実習【構築・発信③】				10	平和学習ファシリテートに関する講座及び実習【構築・発信③】
11	8	土	11	沖縄戦体験者の語り継ぎ手に関する講座及び実習 B【構築・発信④】	11	8	土	11	沖縄戦体験者の語り継ぎ手に関する講座及び実習 B【構築・発信④】
			12	平和講話・ガイド、語り継ぎの実践に関する講座及び実習【構築・発信⑤】				12	平和講話・ガイド、語り継ぎの実践に関する講座及び実習【構築・発信⑤】
11	15	土	13	平和講話・ガイド、語り継ぎの実践に関する講座及び実習【構築・発信⑥】	11	15	土	13	平和講話・ガイド、語り継ぎの実践に関する講座及び実習【構築・発信⑥】
			14	閉校式・修了証書授与				14	閉校式・修了証書授与

令和7年度「沖縄戦の語り継ぎ手養成講座」の様子



沖縄会場 講座



石垣会場 講座



沖縄会場 フィールドワーク



石垣会場 フィールドワーク

証言映像収録・編集・発信(収録)事業業務



戦後の証言映像

沖縄県平和祈念資料館では、これまで多くの戦争体験者の証言を記録し、公開してきました。

令和7年度は令和4年度に引き続き、戦後から1972年の日本復帰までの“アメリカ施政権下(アメリカ世)”におかれた沖縄をテーマにして、さまざまな体験をされた20名の方々に、ご自身の体験を語っていただきました。

証言内容も、戦後の復興、復帰運動、土地闘争、コザ暴動(騒動)、オキナワンロック、国費留学(日本本土)、米国留学、沖縄空手など多岐にわたり、当時の沖縄社会の諸相や人々が直面してきた問題などについて、知ることができます。

証言者の紹介【50音順】

青山 恵昭 さん

日本復帰前、琉球立法院勤務を経て、復帰後、美術デザイン社を共同経営。父が台湾2・28事件の犠牲者とする訴訟を台北高等行政法院に起こし、外国人遺族初の補償判決を受けた。

小渡 律子 さん

米国統治下時代上京し、東京の大学で勉学に励む傍ら、「東京沖縄県学生会」の一員として沖縄の「祖国復帰運動」に情熱を注いだ。高校教師を退職後、「小禄9条の会」を立ち上げた。

喜屋武 幸雄 さん

幼少の頃からコザ(現沖縄市)の繁華街で育つ。沖縄県ロック協会の設立に携わり、音楽イベントや文化振興、若手育成支援活動を通して、オキナワンロックの普及に尽力。

金城 正篤 さん

琉球大学名誉教授。千葉大学、京都大学大学院を経て、琉球大学の教員となり、研究者・教育者の道を歩む。沖縄県史や歴代宝案編集事業に携わる。

金城 實(実) さん

高校で英語を教える傍ら制作活動を始め、彫刻家の道へ。戦争や差別、人権をテーマにした表現活動を通して社会問題への強いメッセージを発信し続けている。

国吉 正雄 さん

伊良部島佐良浜地区でグルクン(県魚・タカサゴ)のアギヤー漁を行う国吉組代表。後継者不足問題を抱えながらも古くから伝わる伝統漁法を守り続けている。

佐々木 末子 さん

高校生の時に米軍の土地接収に抵抗する昆布土地闘争に参加。嘉手納基地爆音訴訟に原告として参加し、現在も沖縄の抱える基地問題について次世代に伝える活動を行っている。

島袋 正敏 さん

ヤンバル(沖縄本島北部)の自然と暮らしをテーマにした名護博物館の立ち上げに関わり、初代館長を務める。泡盛文化の継承やアグー豚などの琉球在来動物の保護活動に尽力。

島袋 艶子 さん

米国統治下で沖縄の民謡グループ「でいご娘」を姉妹で結成、県内外で公演する。長年にわたって地域の自治会長を務め、地域コミュニティ活動や小中高校で児童・生徒たちへ「平和の尊さ」を伝える活動を続けている。

新里 勝彦 さん

沖縄空手道松林流喜舎場塾塾長。英米言語文化学科の教授として教育や研究に取り組む傍ら、「沖縄空手」の基本資料の調査・収集・編集・執筆に尽力した。「武術」としての沖縄空手を国内外に発信している。

新里 堅進 さん

劇(漫)画家。膨大な「沖縄戦の証言資料」を駆使し、現場視察を通して緻密な調査を行い、50年以上に渡って「沖縄戦の実相」を描き、伝えることをテーマにした数多くの作品を発表している。

瀬名波 榮喜 さん

米国留学を経験し、英文学博士号を取得。琉球大学教授を経て、名桜大学四代学長に就任。「第32軍司令部壕の保存・公開を求める会」会長や「全学徒の会」共同代表等、沖縄戦の語り部として平和活動に尽力。

平良 修 さん

米国統治下時代に東京や米国での留学を経て、沖縄に戻り、沖縄キリスト教短期大学学長に就任する。沖縄の牧師として平和を訴える反戦・平和活動を精力的に行っている。

高安 藤 さん

在沖米国総領事館勤務時代に沖縄戦で米国に流出した戦災文化財に関心を持ち、調査・研究を行う。沖縄戦で流出した琉球国王の肖像画「御後絵(おごえ)」返還に尽力。

高山 朝光 さん

琉球大学職員、NHK勤務を経て、大田昌秀知事から知事公室長に抜擢され「平和の礎」建設の責任者を務める。沖縄戦体験者として戦争の悲惨さを語り継ぐ一方、沖縄の平和・国際交流事業に尽力。

仲宗根 将二 さん

長年、宮古島の郷土史や文化財行政に携わり、平良市史編集や文化財保護活動等の事業に多く携わる。平良市総合博物館館長や宮古郷土史研究会会長等を務める。

古堅 重子 さん

宮古島の「南静園」での勤務を経て、「沖縄愛楽園」でハンセン病患者の看護に従事。定年退職後も老健施設や知的障害施設で看護職を91歳まで続ける。

宮城 涼子 さん

聖クララ教会修道院シスター。幼少の頃、フィリピンで戦争を体験。現在も生活困窮者支援、反戦活動、環境保全活動、県内外からの平和学習交流プログラムの受け入れ等、様々な人材育成活動に取り組む。

宮永 英一 さん

オキナワンロックの第一世代として、ロックバンド「紫」や「コンディション・グリーン」などのバンドでドラムやボーカルで活躍。ロックと琉球音階に影響を受けた楽曲制作にも取り組む。

森口 豁 さん

沖縄をテーマにしたドキュメンタリーを数多く制作。米国統治下の沖縄を知る数少ない日本人ジャーナリスト。復帰前後の沖縄の実態を伝えることをライフ・ワークとして、日本本土で活動する。



証言映像は Web サイト「世替わりを生きて」に公開しております。どうぞご覧ください。

令和7年度 子ども・プロセス企画展

(1) 第3回子ども・プロセス企画展

「沖縄の民間人収容所と捕虜収容所」

期間 令和7年10月24日(金)～
令和8年2月8日(日)

場所 子ども・プロセス展示室「ひろば・ゆいまーる」

米軍は沖縄戦の開始直後から、沖縄本島の住民を捕らえて民間人収容所に収容しました。収容所は、住民を保護するために設置したものでした。

しかし、収容所では食糧不足や医療体制の不備から、沖縄戦で負傷し衰弱した人びとが次々と亡くなりました。また、米兵による犯罪や事故が多発し、人びとは不安と恐怖におびえながら収容所の生活を送りました。

今回の企画展では、沖縄県民が体験した民間人収容所への強制収容について取り上げ、米軍が収容所を設置した目的や住民の生活の状況などについて展示しました。また、民間人収容所と区別して、日本兵を収容するために設置された捕虜収容所についても展示しました。そこには沖縄戦を生き延びた1万人余の日本兵が収容されていました。

終戦後も長く続いた収容所での厳しい生活の様子をご覧ください、戦争の悲惨さと実相を深く理解する機会としました。



企画展を見学する子どもたち

(2) 第4回子ども・プロセス企画展

「県外での戦争体験と沖縄への引き揚げ」

期間 令和8年 2月19日(木)～5月24日(日)

場所 子ども・プロセス展示室「ひろば・ゆいまーる」

戦前の沖縄県では、多くの人びとが移民や出稼ぎで海を渡り、日本本土やアジア太平洋地域で働いていました。太平洋戦争の戦局が悪化すると、沖縄県から九州や台湾へ多くの人びとが疎開しました。南洋群島やフィリピンなどは戦場となり、多数の沖縄県出身者が犠牲になりました。戦後、沖縄に引き揚げてきた人びとの中には、沖縄戦の被害があまりにも大きかったため、自らの戦争体験を語らない人もいました。

今回の企画展では、多くの沖縄県出身者が国内外に移住していた理由や、各地で起こった戦況の状況、被害の様子を展示します。戦後、17万人以上の人びとが沖縄へ引き揚げましたが、その道のりは大変困難なものでした。人びとがどのように海を渡り、故郷へ帰ったのかについても、写真資料や体験者の証言を用いて紹介します。

この企画展を通して、戦争体験の記憶や歴史的教訓を私たちがどのように継承していくのか、一人ひとりが考える機会とします。



企画展の様子

第35回「児童・生徒の平和メッセージ」事業

沖縄県教育委員会との共催による「児童・生徒の平和メッセージ」事業は今回で第35回目を迎えました。沖縄県内の児童・生徒に「図画・作文・詩」の創作活動を通して「戦争」と「平和」について考えてもらうことにより、平和を尊ぶ心を育むとともに、応募作品の中から特に優秀な作品を選出し、メッセージ展を開催しています。

児童生徒の作品は、成長段階に応じた捉え方や気づきが伺え、素直な感性が文面や構図にしっかりと表現されていました。その中で、周りへの感謝の心、家族の大切さ、沖縄が今置かれている現状につながる過去の負の記憶の継承、命の尊さ、そして、何より二度と戦争は繰り返さない、平和な未来を創っていくという強い気持ちを感じることができました。

第35回「児童・生徒の平和メッセージ」展は、沖縄県平和祈念資料館を皮切りに、県内5か所で開催し、多くの方が観覧されました。今後も本事業を通じて、子どもたちの平和を愛する心を育むとともに、想いがつまった「平和のメッセージ」を多くの方に伝える場となるよう取り組んでいきます。

各会場の様子



名護市立中央図書館



沖縄県立図書館



沖縄県平和祈念資料館



宮古島市未来創造センター



八重山平和祈念館

【観覧者の感想より】

- *子ども達の作文の内容が多角的な視点で書かれていることにとても驚きました。また、子どもたちの純粋な思いが言葉にこめられとても力強く伝わりました。多くの人に読んでもらいたいです。
- *学生時代は教科書などで取り上げられ、勉強することも多かったが、大人になると「戦争」に対する話題に触れることが少なくなったように感じます。今日のメッセージ展で小・中・高校生の絵や作文をみて、平和のありがたみや、平和が当たり前ではないことを忘れないようにしていきたいと、改めて感じました。
- *メッセージ展を見て、やっぱり平和がいいと思いました。この世の中から争いを減らしたいと思いました。
- *平和について考えること、作品を見て大切なことだとあらためて感じました。素晴らしい企画。ずっと続けてほしい。

「児童・生徒の平和メッセージ」表彰式

令和7年8月23日(土)当館平和祈念ホールにおいて、第35回「児童・生徒の平和メッセージ」表彰式が行われました。

受賞者31名を代表して各部門からそれぞれ代表者1名が作品の朗読や作品紹介を行いました。参加者の児童・生徒や保護者、学校関係者の皆様から大きな拍手が送られ、会場が温かい雰囲気になりました。



作文朗読
那覇市立天久小学校6年
知念 由依



詩朗読
石垣市立登野城小学校3年
宮里 一誓



図画発表
沖縄市立宮里中学校2年
安仁屋 優奈



「図画部門」受賞者



「作文部門」受賞者



「詩部門」受賞者

八重山平和祈念館 活動報告

(3) 令和7年度 12月企画展「移民と八重山ーなぜ人びとは八重山へ渡ってきたのかー」

期間 令和7年12月2日(火)～令和8年1月12日(月)

本企画展では、戦前からの移民の歴史を展示することで移民の受入側の土壌が形成されてきた八重山をみていくとともに、戦後の八重山地域にも大きく影響を与えた開拓移民が「なぜ八重山に渡ってきたのか」に焦点をあて、戦後沖縄の状況や社会情勢についてあらためて学び・考察することができる展示を行いました。また、新たに聞きとりを行った10名を含む多くの体験者の証言を展示し、それぞれの体験から当時の状況をたどることができる内容としました。

そのほか、期間中には企画展関連ワークショップとして、沖縄ファミリーヒストリープロジェクト実行委員会による「うちなーファミ歴タイムライン」を共催しました。

【観覧者】892名(大人722名、小人170名)



沖縄県平和祈念資料館友の会 活動報告

沖縄県平和祈念資料館友の会では、資料館と連携しながら学習会やフィールドワークを行うとともに、県内学校及び地域における平和学習支援や平和講話、戦跡案内やポイントガイドなどの活動を行っています。今回は首里でのフィールドワークに多くの方々が参加し、学びを深めていました。

平和学習フィールドワーク (in 首里)

①「安里から首里への道」

【日 時】令和7年5月17日(土) 10:00～14:00

【講 師】仲村 真さん(友の会)

翁長安子さん・上原美智子さん(座談会及びコーラス)

【参加者】70名



平和学習フィールドワーク (in 首里)

②「首里城周辺の埋没した戦跡壕を巡る」

【日 時】令和7年5月31日(土) 10:00～13:30

【講 師】仲村 真さん(友の会)

【参加者】90名



大人のための平和学習 ～1から学ぶ沖縄戦～

大人のための平和学習は、「沖縄戦の実相と歴史的教訓」を次世代へ継承するため、大人世代が次世代との架け橋となるよう、沖縄戦の学び直しや継承する意義を考える機会を提供することを目的に実施しています。

沖縄戦を学びたい方を対象に、平和講話（沖縄戦の経緯と特徴、沖縄戦の記憶の継承）を中心に、10回実施しました。今年度は、「やんばるの少年兵『護郷隊』」をテーマにした講話など、入門編だけではなく、沖縄戦の多様な実相が学べるようなプログラムも実施しました。

本プログラムでの学びによって参加者が家庭で子や孫と、または職場で同僚と一緒に沖縄戦や平和について話し合う契機となり、世代間における沖縄戦の実相と教訓の継承につながっていくことを期待しています。

実施日時	タイトル	参加者
5月25日（日）	沖縄戦を学ぶ	11
6月29日（日）	やんばるの少年兵「護郷隊」	11
7月27日（日）	戦争遺跡の調査について	6
8月24日（日）	沖縄戦を学ぶ（5月と同じ内容）	25
9月28日（日）	沖縄戦を学ぶ（5月と同じ内容）	15
10月26日（日）	展示室 Q&A	6
11月23日（日）	沖縄戦を学ぶ（5月と同じ内容）	12
12月21日（日）	米軍資料から見た民間人収容地区	16
1月25日（日）	展示室 Q&A	7
2月22日（日）	戦争孤児たちの戦後史	21

2025（令和7）年度 県民力レジュ 連続講座

大人のための平和学習 ～1から学ぶ沖縄戦～

「平和祈念公園・資料館から随分と足が遠のいているな～」
「そう言えば、家庭で沖縄戦・平和について語り合ったことがないな～」
「子どもの頃に学んだ沖縄戦だけど、経緯や背景をあまり知らないな～」
など感じている大人のための「沖縄戦を1から学ぶきっかけ」となる平和学習入門編です。

開催日：① 5/25（日） ② 6/29（日） ③ 7/27（日） ④ 8/24（日）
⑤ 9/28（日） ⑥ 10/26（日） ⑦ 11/23（日） ⑧ 12/21（日）
⑨ 1/25（日） ⑩ 2/22（日）

時 間：10：00～12：00（各日）

場 所：沖縄県平和祈念資料館 2階大会議室・常設展示室

内 容：①平和講話（沖縄戦の記憶の継承・沖縄戦の経緯と特徴等）
②常設展示室見学（案内）

講 師：沖縄県平和祈念資料館 学芸班職員

対象者：沖縄戦（入門編）を学びたい方

定 員：20名

参加料：無料

申込方法：開催日の2日前までに当館へお電話下さい。
（受付時間：9：00～17：00）
※定員に達し次第受付終了となります。

お問い合わせ：TEL：098-997-3844 FAX：098-997-3947

参加者からの感想

- 中国との戦争を含めて沖縄戦への流れがわかって、とても良かったです。自分たちの学びに不十分さがないかと気になり、今回参加しました。全体の流れ、内容などを学べて良かったです。（5月）
- 同じことをくり返さないために、大人が学ぶこと、知ることの大切さに気づかされました。私たち大人が学び、知り、環境をととのえることで、こどもの心を育て明るい未来につながると感じました。今、一人一人できることは？そう考えさせられる時間でした。（5月）
- 仕事で沖縄を伝えることをしていますが、まだまだ知らないことがあると思いました。年々無関心になっていく子どもたちへの語りかけ、どうやったら関心を持ってもらえるのか。とても勉強になりました。これからも続けてほしいです。（9月）
- 今までも何回か展示室を観ていますが、本日色々な解説を頂いた事で別の観点から見る事が出来ると感じました。展示される方々の思いが受け止められるようにしたいと思いましたが、また色々なキャプションをつけて頂くことで新たな興味につながると感じます。よろしくお願いします。（10月）



戦後80年祈念巡回展「島々の沖縄戦」

あの時代を見つめ、 今を生きる私たちが考える——

沖縄戦の実相は各地域で異なった特徴があり、私たちが未来へ受け継ぐべき記憶でもあります。

戦後80年にあたる今年度は、座間味村阿嘉島、伊江島、宮古島、石垣島、与那国島の5カ所の会場で沖縄戦当時の写真資料を中心に、パネルで各地域の沖縄戦を紹介する巡回展を開催しました。



各会場では図録も配布しました。



展 示 日 程

座間味会場

会場：慶良間諸島国立公園ビジターセンター
さんごゆんたく館（阿嘉島）
会期：令和7年12月4日（木）～12月11日（木）

伊江島会場

会場：伊江村農村環境改善センター
（伊江村中央公民館となり）
会期：令和7年12月18日（木）～12月25日（木）

宮古島会場

会期：宮古島市未来創造センター
会場：令和8年1月10日（土）～1月18日（日）

与那国島会場

会場：DiDi 与那国交流館
会期：令和8年1月24日（土）～1月31日（土）

石垣島会場

会場：八重山平和祈念館
会期：令和8年1月28日（水）～2月19日（木）



伊江島会場の様子



石垣島会場の様子

編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1 TEL 098-997-3844 FAX 098-997-3947
URL <https://www.peace-museum.okinawa.jp> Email webmaster@peace-museum.okinawa.jp

